

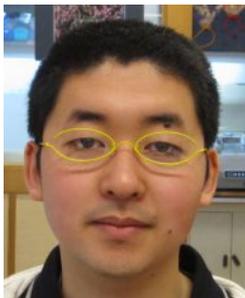
実践編 その16

お客様を紹介します。

当店のお客様の中で、一番北端の札幌にお住まいの白田君。現役の北大4年生です。

実家は当店の近所なのですが、大学が北大なものですから、現在は札幌在住。大学院までいかれるそうで、少なくともあと3年は札幌住まいです。となれば、予備のメガネは沢山あったほうが安心。使えるメガネは、今回購入分を合わせて4本。これならばらくは安心ですね。

お買い上げありがとうございました。そして、モデルを引き受けてくださりありがとうございました。



では、いつもの様に所見から

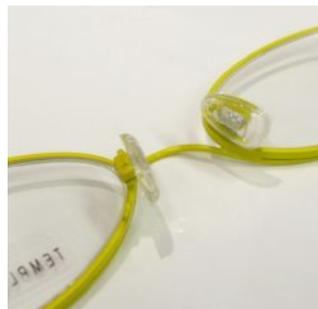
- 1、 クリングスパッドの位置が高すぎて適切ではない。現状より6~7ミリ下げたい。
- 2、 クリングスパッドの大きさが小さいので、一回り大きい物に交換する。
- 3、 前傾角は、まあまあだが、あとほんの少し付けた方がよりベスト。ただ、智の形状が特殊なので、ヤットコの選択は慎重に。
- 4、 モダンは、ゆるゆるなので、屈折点をキチンと付けて調整する。

以上の点を特に考慮しながら、調整していきましょう。

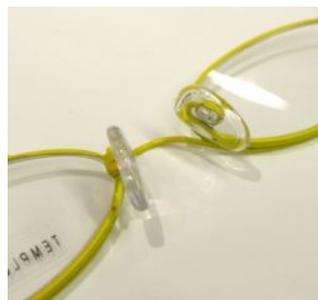
○クリングスの調整

付属で付いているクリングスパッドは、どんぐり型の小型もタイプ。このフレームの大きさならば、もう一回り大き目のタイプでも、見た目におかしくないので交換する。

交換前



交換後



・大きさを比べてみる



交換後のパッドは、一回りと云うか、二回りぐらい大きいのが、コレぐらいのサイズの方が、フレームを顔に乗せたときに安定する。

フレームの大きさにもよるけれど、見た目におかしくない範囲で、大き目のタイプに交換しましょう。付属で付いているパッドを（何も考えずに）そのまま使うのは、もういいか加減にやめましょうね。

・クリングスパッドの位置の調整

調整前



パッドを交換して、フレームを顔に乗せてみると、パッドの位置がすごくおかしい。クリングス足の箱の位置が目頭辺りに見えるので、距離にして6～7ミリ下げて丁度良い感じでしょう。

調整中



片方のパッドを下げてみましょう。フレームのみを見ると、かなり下げていて、見た目に変に思えるかもしれませんが、顔に乗せてみると、丁度具合の良い感じがします。個人差はあるにせよ、パッドの位置はこの辺りがベストでしょう。

調整後

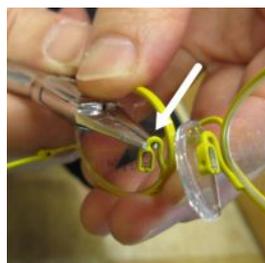


両方のパッドを下げてみると、それほど違和感はありません。こんなもんだと思えば、当たり前の位置です。顔に乗せてみると、鼻根のすぐ下から始まる八の字の傾斜に乗せましょう。

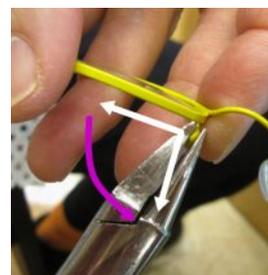
・クリングス調整の手さばき



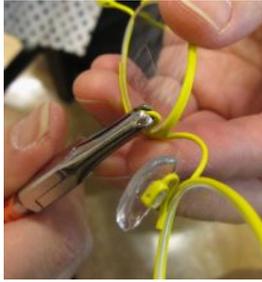
今回は、調整に入る前にこのフレームに付属しているクリングスアームのU字足を見てみましょう。フレーム玉型下部よりロー付けされていて、足上部の∩の曲がり戻ってすぐに箱のロー付け。他社では、カザールやスワロフスキーのフレームにもこのクリングスアームが多く見受けられます。



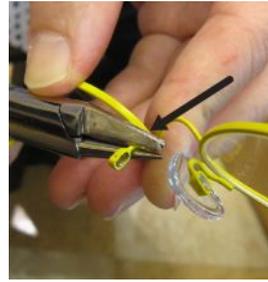
何度も同じ事をお話ししますが、U字足のクリングス調整は、パッドを外しておこないます。通常のU字足の調整は、いつもならばニシムラ No.623 で、ちょいちょいと合わせてしまうのですが、∩の箱スグ上の曲がり始めからリムロー付け位置までのRの間隔が、狭い(短い) 為に、No.632 のヤットコ先が入りません。さて、どうしましょう？



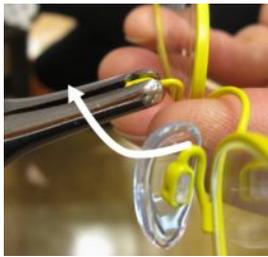
と、その前に、まず後々の調整がしやすいように、U字足の方向をレンズ面と垂直になるように、No.632 か No.651 にて調整します。



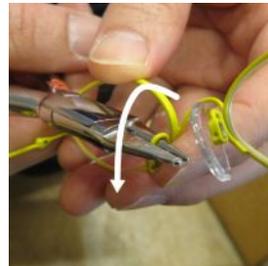
これが正解！と云うか、この方法しか思いつきません。少し乱暴な合わせになってしまいますが、ニシムラ No.395 や No.142 の様なパッド調整のヤットコで、ワンタッチの箱を挟んで、No.632 が使える状態まで、グイ！と開きます。写真のヤットコは EMP ヤットコです（現在入手不可）



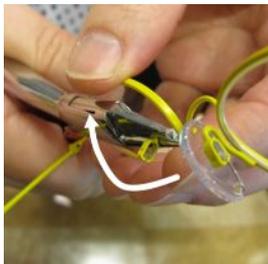
開く角度が決まったら。ヤットコ先の位置をリム側に移動して、掴み直します。そしてヤットコ全体をレンズ面に押し付けるようにして、逆に（下方向）回していきます。



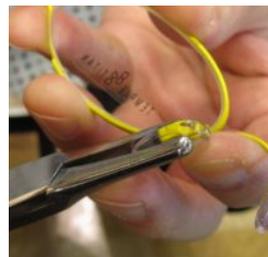
先ほど解説した、乱暴な方法でグイと U の間を開きます。（本当は、かなり危険なテクニックです）モロいアジア製のフレームでは、この調整に耐えられないかもしれません・・・・・・
どうぞ、御注意を・・・・・・



下に引っ張るように動かすと、きれいな U になりませんので、気をつけましょう。ただただ無心で、レンズ面にヤットコを押しながら回すだけです。



十分に U 字の間隔が開いたら、ヤットコを No.632 に持ち替えて、箱のすぐ上部を掴んで、さらにいつもの様に、ぐるりと回していきます。持ち上げる量は、下げる量に比例します。今回の 6～7 ミリ下げるとなると 90 度以上の角度を開かなければなりません。



最後は、パッドを付け直して、ニシムラ No.395 などのパッド用のヤットコに持ち替えて、形を整えて仕上げていきます。

○前傾角の調整
調整前



前傾角度を見ると、まあまあ良い感じで、そのままでも何ら問題ないのですが、あとほんの少し付いていた方がさらにベストに思えるので、角度を深くしてみましょう。

・フレームの形状



このタイプは、智がとても个性的で、ナイロン糸で上下が繋がっているだけです。リム下から、智を捻らないように、正面側のリムをしっかり固定しましょう。

・ヤットコの選択



こんな時に左手のヤットコは、アイデア勝負です。滅多に無いでデザインなので、いくつかのヤットコを挟んでみて、一番固定感の良いものを使います。

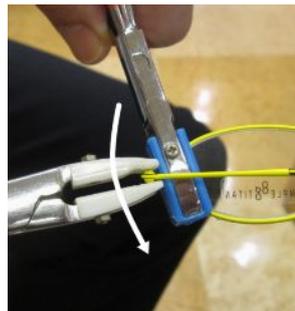
今回はニシムラ No.356 を使いました。

・前傾角調整の手さばき
右智の調整



変わったデザインの智で、しかも細いデザインなので、右手にいつもの No.1530 では、ヤットコのサイズが大きく繊細な力の加減がわからないので、今回は右手はパールの A-120 にしてみる。

左智の調整



NO.356 も斜めに挟まないと、智を掴めないで、なんとか工夫して頑張る。

調整後



前傾角をほんの2～3度深くしてみたら、さらに具合が良さそうに見えます。これなら安心ですね。

○モダンの調整

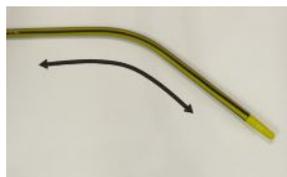
調整前



ほとんどのフレームは、未フィッティングではゆるめになるように、出荷されています。今回のケースも例外ではなく、ゆるゆるになっていて、このままでは、とても具合が悪そうです。

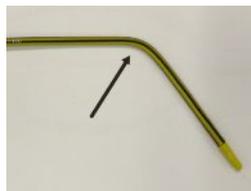
・モダンの形状

調整前



ただ、だらだらと曲がっているだけ。

調整後



カクッと曲げる要領で、コレぐらいの角の尖りになります。

・モダン調整の手さばき

右モダンの調整



右モダンは、右手の人差し指の第一関節付近を支点として、調整していきます。

左モダンの調整



左モダンは、右手親指の爪の生え際出口付近を支点として、調整してきます。

調整後



これは、モダンが耳介の付け根に上手にトレースされていて、屈折点もピタリと合っています。この様に、モダン先まで、神経を使い、決して圧迫せずに同じ圧力で（耳周りを）触っているのが理想です。何度も云いますが、耳周りの圧迫は厳禁です。触っているだけで良いのです。

○仕上げ



おお、白田君！これは具合が良さそうです。今回も、腕を奮っての横田流の調整ですので、どうぞ安心してお使い下さい。北大卒業まで、あと数年。こちらに帰郷の際には、またメンテナンスに寄ってくださいね。お待ちしております。